

引退競走馬使いホースセラピー

笠松町に研究会発足

羽島郡医師会など参加



専門家がホースセラピーの目的や効能を解説した講演会＝羽島郡笠松町常盤町、笠松中央公民館

馬は地域活性化につながるか。笠松競馬場がある羽島郡笠松町の一つ「ホースセラピー」で、引退した競走馬な

どの馬を動物介在療法郡医師会、同競馬場などで行く研究会が立ち上がった。地元にも理解を深めてもらおうと、専門家を招いた講演会を同町の笠松中央公民館で開いた。ホースセラピーは、馬にまたがることで伝わる脳への刺激や触れ合いによる安らぎが、心身の治癒に役立つと

して注目されている。地域資源を医療に生かそうと、松波総合病院(同町田代)の呼び掛けで研究会を設立。同院によると、競馬場と医療機関の連携によるホースセラピーの展開は例がなく、松波英寿理事長は「地方競馬の新たなビジネスモデルにできるのでは」と期待を寄せる。

講演会には、町民ら約300人が参加し、東京農業大の川嶋舟准教授(動物介在療法)らが、身体機能の回復や障害のある子どもの教育といったホースセラピーの目的や効能を解説した。一方、看護師や理学療法士などの資格を持つ指導員を配るだけの利益を生めるか重要な」と述べた。(山田俊介)